

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K03128

研究課題名(和文) キャリア支援者の指導者養成プログラムの開発と効果の検討

研究課題名(英文) Development and Effectiveness of a Leadership Development Program for Career Counselor

研究代表者

岡田 昌毅 (Okada, Masaki)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：10447245

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、キャリア支援者を育成・指導できる「指導者養成プログラム」を開発し、その効果や指導者の職業的発達に関し検討することを目的とした。プログラム開発を行い、試行実施回での検討を経て正式実施を開始した。試行実施回での効果検証、ATDでの情報収集により、プログラムを改善した。正式実施後のプログラムに関する効果検証、及びオンライン実施(コロナ禍の影響)の効果検証を行った。2022年度には、望ましいカリキュラムの再検討を行い、本プログラムを補完する小規模プログラムを検討・実施した。最終段階では、キャリアカウンセラーにおける指導者層の職業的発達プロセスや、現状の実態と意識・行動を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、開発したプログラムの効果を量的・質的の両面のアプローチから明らかにした点、キャリア支援者の指導者層の職業的発達に関する細やかなプロセスを明らかにした点、指導者層の実態や意識・行動を実証的に明らかにした点である。キャリア支援者への期待は企業領域にとどまらず、教育・福祉・医療・司法など多領域に拡大しており、支援者を教育・指導できる指導者層を拡充することは喫緊の課題となっている。本研究を通じた知見はキャリア支援者の指導者層の教育・支援への実践的な示唆につながり、社会的意義は高いと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop a “Leadership Development Program” for career counselors and to examine its effectiveness and the professional development of leaders. The program was developed and formally implemented after a trial implementation. The program was improved based on the effectiveness of the trial implementation, information gathered at the ATD, and opinions obtained at a roundtable meeting with graduates of the program. During the study period, the program was affected by the Corona disaster, and we considered and implemented an online version of the program. In FY2022, the desirable curriculum and administration of the program were reexamined. As a result, a small-scale program to complement the program was also studied and implemented, and its effectiveness was also clarified. In the final stage, we examined the professional development process of the leadership level in career counseling and the current reality, awareness, and behavior of career counselors.

研究分野：産業・組織心理学，キャリア心理学

キーワード：キャリア支援 指導者養成プログラム開発 職業的発達 プログラム効果検証

1.研究開始当初の背景

日本におけるキャリア支援は労働政策上の動きや社会的ニーズの影響を受け、徐々に職務として確立されてきた。第7次職業能力基本計画(2001)では、キャリアコンサルティングの基盤整備が進み、2002年からは能力評価試験が開始された。2015年には「キャリアコンサルタント」を名称独占国家資格とする法律が成立し、2016年以降資格者養成が継続されている。このように社会的な要請が高まり、国家資格者の人数は順調に拡大しているが、キャリア支援者の資質向上や教育・支援体制は課題として残っていた。支援者を教育・指導できる指導者層に焦点を当てた検討も遅れていた。

2.研究の目的

本研究では、キャリア支援者を育成・指導できる「指導者養成プログラム」を開発し、その効果を検討した。プログラムを開発し効果を検証し、さらに指導者層の職業的発達プロセスと指導者層の実態や意識・行動を明らかにすることを具体的な目的とした。

3.研究の方法

(1)平成30年度は、前年度に行ったプログラム開発と試行実施(研究1)にもとづき、正式実施を開始した(研究2)。年間で2回運営した。試行実施時の効果に関する学会発表を行い、正式実施を通じた効果検証を開始した(研究2)。

(2)平成31年(令和元)年度は、1年間で2回運営し、効果検証を継続した(研究6)。米国で開催されたATD(Association for Talent Development)での情報収集と(研究5)、修了生座談会での意見聴取から、プログラムを改善した(研究3)。指導者層の職業的発達プロセスの検討も開始した(研究4)。50代から70代の指導者20名に対する半構造化面接を実施し、分析にはM-GTA(修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ)を用いた。

(3)令和2年度は、コロナ禍の影響から全面オンライン化の運営を検討し、1年間で2回運営した。正式実施後のプログラムの効果に関する学会発表を行った。

(4)令和3年度は、オンライン形式で2回運営した(研究6)。オンライン化の影響を含めた効果検証を実施し、学会発表を行った。指導者層の職業的発達プロセスに関する学会発表も行った。

(5)令和4年度は、ここまでの運営実績を中間総括し、本プログラムの望ましい内容・運営に関する再検討を行った(研究7)。その後運営を再開し、オンライン形式で1回運営した。本プログラムを補完する小規模プログラムの検討と運営を行い(研究8)、その効果に関する学会発表を行った。

(6)令和5年度は、社会動向を踏まえオンライン形式1回、リアル対面形式1回の運営とした。プログラム運用のための最新実態把握のために、指導者層の意識と行動に関する量的調査を実施した(研究8)。

4.研究成果

(1) 指導者養成プログラム開発に関して

キャリアコンサルタント(国家資格)養成の認定要件等を参考にしたうえで、プログラムを考案した。キャリア支援者における指導者層を「キャリア・プロフェッショナル」と定義し、プログラム名を「キャリア・プロフェッショナル養成講座」と命名した。8領域(「キャリア・プロフェッショナルとしての在り方」「キャリアコンサルティングに必要な理論と実践」「生涯発達に関する領域」「社会行動や人間関係に関する領域」「キャリア開発と組織開発に関する領域」「職場における心の健康に関する領域」「労働と雇用に関する領域」「実践的研究に関する基礎知識」)で構成される、約130時間プログラムとして開発した。研究期間中の運営と改善を経て、最終的には約140時間(期間は約半年間)のプログラムとなった。

(2) 指導者養成プログラムの効果検証に関して

プログラム受講前後での、受講生の心理面や行動面に与える効果を検討した。以下の四点を指標とした。個別科目や領域単位での有意義度と理解度、プログラム全体を通じた満足度、プログラム開始前と終了時の受講生の意識面や行動面の変化(心理尺度による量的アプローチ)、プログラムを通じた受講生の意識の変化(自由回答による質的アプローチ)。結果として、キャリア支援に関する自己効力感や指導者としての主体性や実行力が高まること、講座後も継続的な学習行動が進む傾向があること、個人や組織への働きかけが強化されることなど、プログラムとしての特徴や効果が明らかとなった。なお、オンライン形式での効果検証でも、運営上の施策・工夫により同様の効果であることが確認された。なお、上記指標に加え、プログラム運営上のアンケート調査も毎回実施し、プログラム運営上の改善に生かした。

(3)キャリア支援者における指導者層の職業的発達について

キャリア支援者の指導者としての職業的発達が、「キャリア支援者の指導者としての役割・行動および意識の変容プロセス」として整理された。キャリア支援者の指導者としての職業的発達は「役割・行動の変化」と「指導者としての意識の変化」が関連しながら進み、「支えとなるもの」が影響を及ぼし、「意識的な学習」が進むプロセスであった。指導者となった後、実践の中で困難さに直面し、専門性への葛藤を感じることや指導者とし

でのスタンスを持つことや、そのためにも意識的な学習が求められることなど、職業的発達にかかわる重要な概念が示唆された。

(4)補足的なプログラムの開発と効果検証に関して

本プログラムはキャリア支援の学習に焦点を当てていたが、指導者としての職業的発達の促進には、キャリア支援者自身に焦点を当て専門性や在り方をふりかえる内容も必要であると判断し、補完的な小規模プログラムを開発した。8領域(「キャリア支援者の職業的発達」「経験のふりかえりによる自己理解」「アセスメントツールを通じた自己理解」「様々な領域での支援・理念」「キャリア支援における職業的倫理」「先輩のキャリアストーリー」「支援者としてのビジョンや在り方」「キャリア支援における専門性」)で構成される集合研修と複数回の個別面談で構成される、計約35時間プログラムとして開発された。本プログラムはキャリア支援者自身にとっての内省的な学習機会や専門職同士の意見交換ができる良質な教育機会となったと考えられる。プログラム受講により学習態度、自身のキャリア意識、キャリア支援に関する自己効力感などの向上につながることも明らかとなった。

(5)キャリア支援者における指導者層の実態や意識・行動について

キャリア支援者の指導者層の実態や意識・行動を検討するため、活動や状況の実態、キャリア支援者としての意識(支援者としての意識、キャリア自律意識)、キャリア支援に関する自己効力感、キャリア支援者としてのワーク・エンゲイジメント、キャリア支援で大切にしていること等を分析対象とした。今後の学会発表と学術論文で詳細を報告する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 原恵子・磯貝和子・岡田昌毅	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 キャリア支援者の職業的発達を促す教育プログラムの開発と効果に関する一考察 大学での取り組みに基づくケース報告	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 キャリア・カウンセリング研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原 恵子、高橋 南海子、岡田 昌毅	4. 巻 19
2. 論文標題 キャリア支援者の指導者としての職業的発達プロセスに関する探索的検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 キャリアデザイン研究	6. 最初と最後の頁 109～116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57448/cdi.j.19.0_109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原恵子・高橋南海子・岡田昌毅	4. 巻 15
2. 論文標題 キャリア支援者の指導者養成プログラムの開発と効果に関する検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 キャリアデザイン研究	6. 最初と最後の頁 217-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 原恵子・磯貝和子・岡田昌毅
2. 発表標題 キャリア支援者の職業的発達を促進・支援するプログラムの開発と効果に関する検討
3. 学会等名 日本カウンセリング学会第54回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原 恵子・高橋 南海子・岡田 昌毅
2. 発表標題 キャリア支援職者の指導者としての意識や行動の変容プロセス
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 南海子・原 恵子・西内華朱美・岡田 昌毅
2. 発表標題 オンラインによるキャリア支援者の指導者養成プログラムの効果の検討
3. 学会等名 日本キャリア・カウンセリング学会第26回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋南海子・原恵子・西内華朱美・岡田昌毅
2. 発表標題 キャリア支援者の指導者養成プログラムの効果の検討
3. 学会等名 日本産業カウンセリング学会第25回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原恵子, 高橋南海子, 岡田昌毅
2. 発表標題 キャリア支援者の指導者養成プログラムの効果に関する予備的調査
3. 学会等名 産業・組織心理学会第34回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	高橋 南海子 (Takahashi Namiko) (70620558)	明星大学・明星教育センター・准教授 (32685)	
研究 分担者	原 恵子 (Hara Keiko) (70813658)	筑波大学・働く人への心理支援開発研究センター・准教授 (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------